

時空を超えて～光秀がつなぐ丹波～



4月28日、明智光秀ゆかりの篠山市、丹波市の三つの山城で「今、心一つに丹波地域を活性化しよう」と一斉に「のろし」があがりました。440年の時を超え「光秀がつなぐ丹波」とは？今回は、イベントを主催した丹波地域ビジョン委員会「グループつなぐ」のリーダーの高橋京子さんにお話をお聞きしました。



イベントの様子は動画(まるで6月号)でも

人が好き まちが好き

街かど Report

夢とロマン「グループつなぐ」

今回、「八上城、金山城、黒井城の三山をのろしでつなぐイベント」を主催した三つの委員会の一つ丹波地域ビジョン委員会「グループつなぐ」は、丹波篠山市と丹波市のメンバー13人で構成されています。同グループでは、丹波地域ビジョンの将来像、交流のたんばの実現と丹波地域の一層の活性化に向けて、人と人、地域と地域、過去・現在・未来などを「つなぐ」ことをテーマとして、丹波篠山市・丹波市をつなぐ象徴的なスポットである金山をフィールドに活動されています。今回のイベントは、2020年に放送が予定されているNHK大河ドラマ「麒麟がくる」に向けて丹波地域の機運を高めるため、ふるさと再発見プロジェクトとして、明智光秀ゆかりの三山が連携して企画されました。

イベントを振り返って

今回のイベントには、地元はもとより阪神間や他地域からも多くの方にお越しいただきました。丹波地域つなぐの「あな」また来たあ「という丹波ファンが増えたことが何よりうれしいですね。金山の山頂から見た3つの赤いのろしは心のつながりと丹波地域の元気を感ずることができました。

私たちはいつも、わくわくドキドキしながら楽しく活動を続けています。丹波地域をますます元気にするために、これからも楽しく取り組んでいきたいと思っています。



丹波地域ビジョン委員会「グループつなぐ」リーダー 高橋京子さん



のろしがあがった様子(金山)

明智光秀がつなぐもの

明智光秀は天下統一を目指す織田信長の命を受け、1575年から1579年にかけて丹波攻めを行い、八上城などを舞台に激しい戦いが繰り広げられました。一度大敗した光秀は黒井城と八上城を分断するために1578年に金山城を築城。その後、多くの悲話を秘めた伝説を残して、翌年、八上城は落城しました。光秀にとって「丹波攻め」は、生涯で最も苦労した戦いとされています。

戦国時代の名将・明智光秀はかつて、この地に受け入れがたい存在でした。しかし、440年の時空を超えて今、丹波の地に帰ってきました。3つの山をつなぎ、心をひとつにした「のろし」は、人と人、地域と地域、丹波地域の過去・現在・未来をさらに強くつなぐ合図として上がりました。

未来の子どもたちにつなげよう

明智光秀の運命を大きく変えた一人ともいえる、八上城主・波多野秀治。私は、波多野秀治の存在なくして、今日に至る誇り高い丹波篠山の歴史は築かれなかったのではと思います。

さあ、新しい時代「令和」が始まり「丹波篠山市」が誕生しました。先代から受け継いだこの素晴らしい丹波篠山を未来の子どもたちにつなげるように、みんなで力を合わせていけたら良いですね。

黒井城跡：丹波市春日町多田(猪ノ口山 標高356m)では…

約350人が参加し、約40分の登山を楽しみました。山頂では、戦を前に心を静める甲冑武者のお茶会の再現や、黒井城主・荻野(赤井)直正にちなんだ新作能「直正」の上演を楽しみました。



(主催：黒井城跡地域活性化委員会)

金山城跡：大山地区(金山 標高540m)では…

約80人が参加し、約1時間の登山を楽しみました。八上城跡、黒井城跡の「のろし」を確認することができました。登山を終えた後は、鐘ヶ坂(昭和)トンネルで音響効果を生かしたコンサートも楽しめました。



(主催：丹波地域ビジョン委員会「グループつなぐ」)

八上城跡：八上地区(高城山 標高462m)では…

約80人が参加し、45分の登山を楽しみました。山頂では、高城歌舞伎が舞と唄、パーカッションで披露され、その演目を楽しみました。



(主催：八上城麒麟がくる委員会)

このイベントをきっかけに、山登りに挑戦！歴史の魅力を発見、体感！黒井城跡からみた絶景に感動しました



リポーター 畑弘恵さん(東新町)